

祭文

霞ヶ浦爽やかな筑波の風流れる本日「公益財団法人海原会」第四十七回予科練戦没者慰霊祭を開催いたします。

ご来賓、ご遺族会員のご参列奉り、又関係者各位のご協力により慰霊祭式典を挙式得ました事「主催者」を代表しまして有難く御礼申し上げます。

さて、「海軍飛行予科練習生」誕生の歴史は、第一次世界大戦が終了して平和な世になりました。しかし乍ら大正年代各国は作戦上航空機の増強が目立ち始め、日本海軍首脳も搭乗員の主力に十五、六才少年募集制度を確立、約六千余名の受験者より昭和五年六月、横須賀海軍航空隊に第一期予科練習生「七十九名」が合格し、基礎教育を行いました。

世界は更なる戦力拡大の現実には、我が海軍も昭和十五年十一月、最大揺籃の地として、霞ヶ浦湖畔に「土浦海軍航空隊」開隊。その後全国に十七ヶ所設立。

練習航空隊を巣立った彼等は搭乗員に必要な酷しく苦しい延長教程を受け第一線部隊に配属、各隊で錬成され海軍航空の中心に成長、中国大陸広く太平洋全域の戦闘で最後の勝利を信じ、昭和の御代に二十前後の若者がみずから永い人生の総てを自ら断ち国難に赴く為に「神風特別攻撃隊員」に参加、出撃も共に大空高く、又海深くいずこの地に果つるとも、国に命を捧げるを誓い合った予科練出身搭乗員「二万八千余名」の七十%近い「一万八千五百六十四柱」が戦いの庭に没しました。彼等の勲高き靈魂は、先輩と「七ツ釦」姿の後輩「ガツチリ」肩を組み、二人像碑内に祭られ今、静かに休まれています。

ご遺族の宝、遺影、遺品等昨年雄翔館内新しく改装展示して見学者の視線に合わせた内容となりました。また、隣接します阿見町町立の

「予科練平和記念館」は町の皆様善意のお力で設立し、立派な施設により歴史的な背景を主体とした資質と多くの記録を示されています。本日も参列の良い機会です。是非ともご参観頂きますこと幸いと存じます。

茨城県つとに日本人の心に深く残り、星移り変わり行くとも、世のために尽くす真心の貴さに差意はなく「予科練魂」永遠に次の世代に伝えます。

英霊のとこしえに、安かれと祈る。

平成二十六年五月二十五日

公益財団法人 海原会

堺 周一

